Smart Trash説明書

Smart Trashを使って何ができる？

Smart TrashはMacのゴミ箱の管理ツールです。ゴミ箱に入っている項目を選んで捨てることができます。さらに、ボリューム別のゴミ箱を空きにすることができます。いつ、何を捨てたか記録されるログファイルも保存できます。作業を楽にするショートカットキー割当機能もあります。ゴミ箱に沢山の項目が入っているがすべてを捨てるのが不安というときに非常に役に立ちます。

対象 OS

Mac版
Mac OS 10.5以上

体験版について

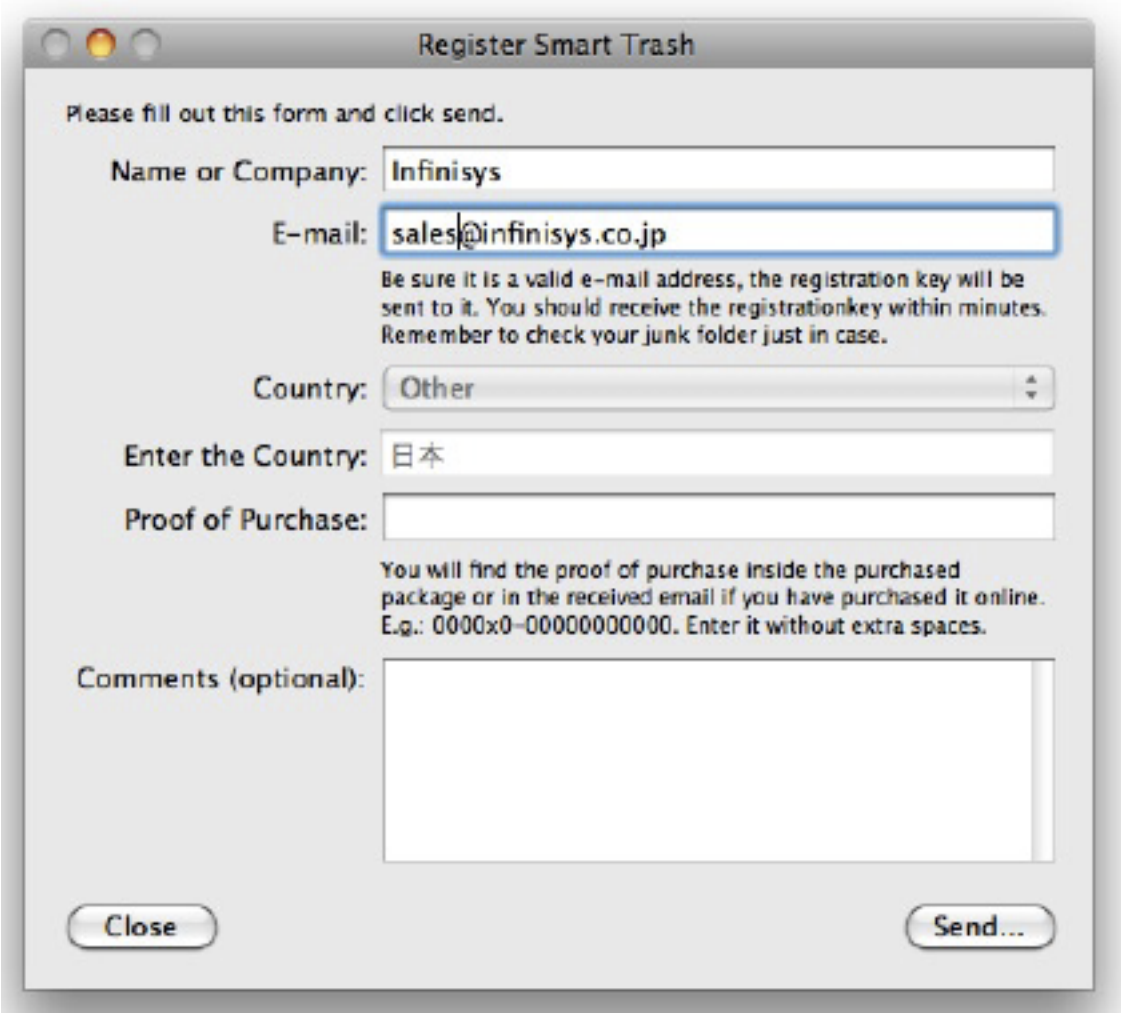
体験版ではゴミ箱を10回まで空きにできます。

Smart Trashの購入

Smart Trashをご購入の場合は「Smart Trash」メニューから「Web」/「Purchase Online」を選んで下さい。Smart Trashの購入ページに接続されます。

シリアル番号の入力

ご購入後、メールまたは書面でシリアル番号が届きます。「Smart Trash」メニューから「Register」を選びます。下記の画面が表示されます。



「Name or Company」：お名前、または会社名を入れます。
「E-mail」：メールアドレスを入れます。
「Proof of Purchase」：メールまたは書面で届いたシリアル番号を入れて下さい。

「Send」をクリックすると体験版が製品版に変わります。
開発元から登録番号がメールで届きます。この登録番号は入力する必要がありません。

Smart Trashのインストール

「Smart Trash Installer」をダブルクリックします。下記の画面が表示されます。

「Install」をクリックすると「Smart Trash」がインストールされます。

※すでに「Smart Trash」がインストールされている場合は「Uninstall」をクリックすることでアンインストールができます。

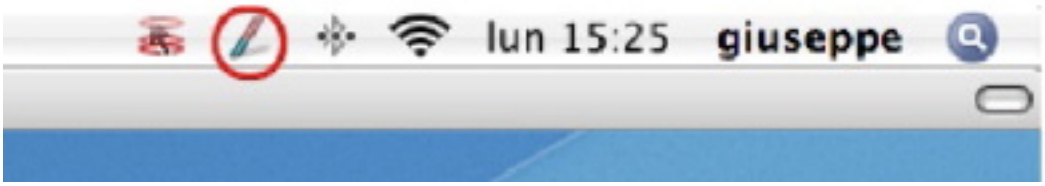
インストールが終わるとダイアログが表示されます。

「Quit」をクリックして下さい。

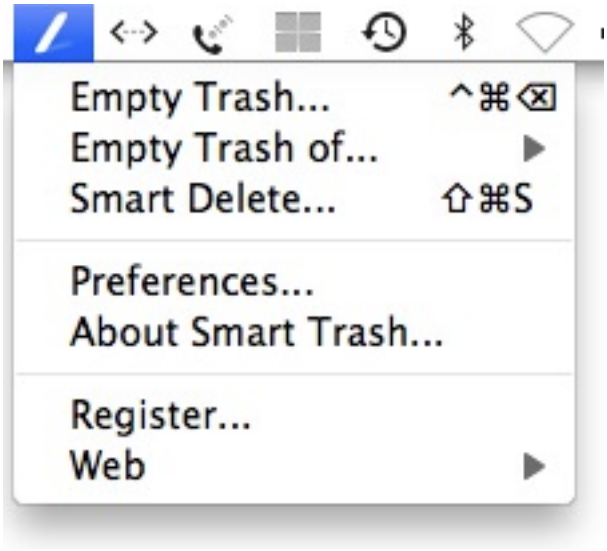
Smart Trashの使い方

「Smart Trash」メニュー

「Smart Trash」がインストールされると「Finder」のメニューバーに「Smart Trash」のメニューが表示されます。



アイコンをクリックするとメニューが表示されます。



「Empty Trash」（ゴミ箱を空きにする）：これを選ぶとダイアログが表示されます。「OK」をクリックするとゴミ箱が空きになります。

「Empty Trash of」：ボリューム別のゴミ箱を空きにする。サブメニューにコンピュータにマウントされているボリュームが表示されます。ゴミ箱を空きにしたいボリュームを選ぶとダイアログが表示されます。「OK」をクリックするとそのボリュームのみのゴミ箱が空きになります。

※警告ダイアログが表示されないようにしたい場合は「Preferences」で設定できます。下記の「Preferences」を参照して下さい。

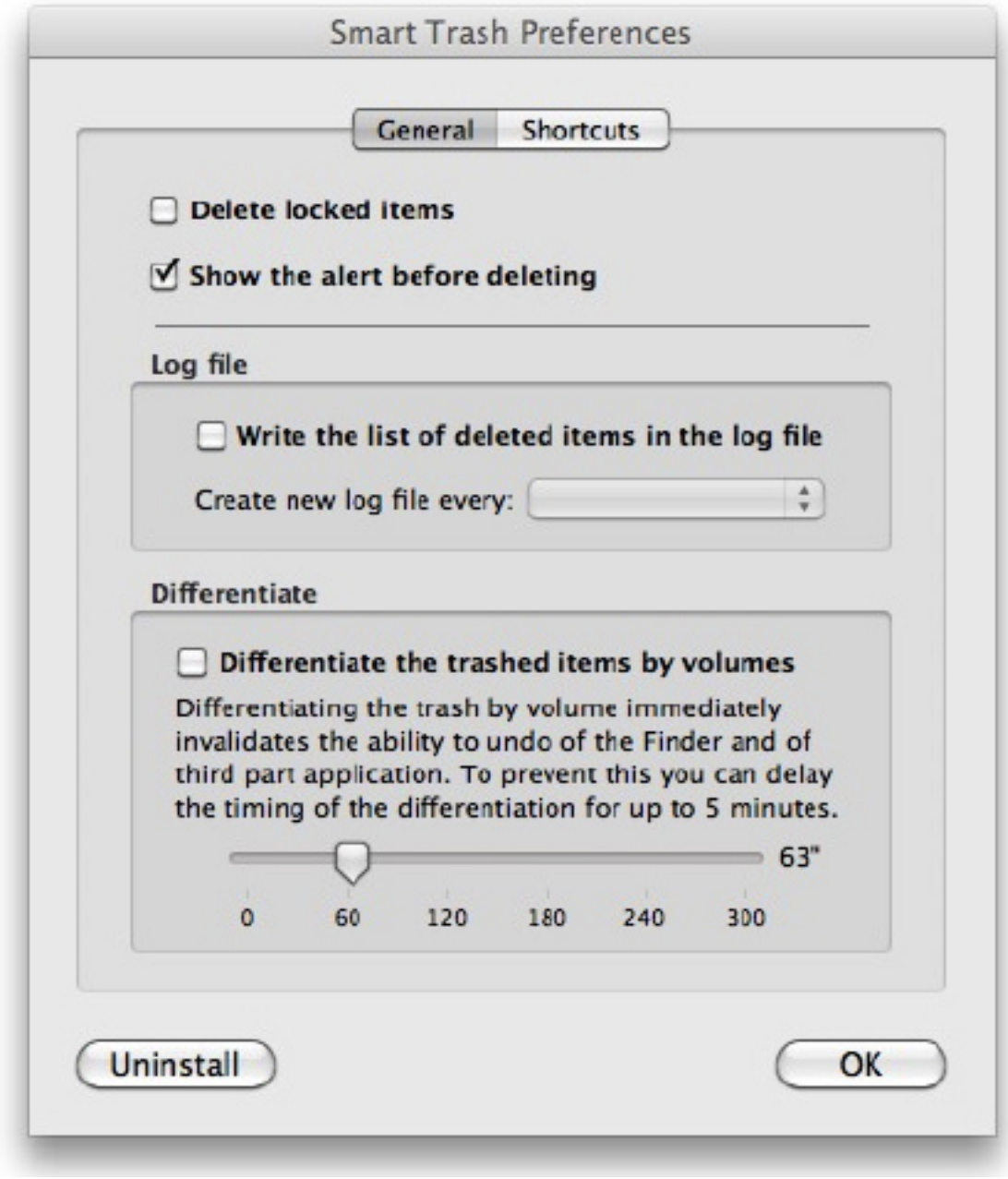
「Smart Delete」（選択して削除）：これを選ぶと下記のウインドウが表示されます。

削除したい項目を選んで「Delete」をクリックするとダイアログが表示されます。
「OK」をクリックすると項目が削除されます。

「All on」：すべてを選択
「Refresh」：リストの更新
「Cancel」：キャンセル
「Secure Delete」：これをクリックするとゴミ箱の項目を完全に削除します。項目のすべてのデータを「0」で書き換えます。こうするとデータ復旧ソフトを使ってもデータを復旧できません。
「Delete」：削除

Preferences「環境設定」

「Preferences」を選ぶと下記の画面が表示されます。



「Delete locked items」：ロックされている項目も削除
「Show the alert before deleting」：削除する前に警告のダイアログを表示

Log File (ログファイル)

「Write the list of deleted items in the log file」：これをチェックすると削除された項目が記録されるログファイルが保存されます。メニューでログファイルの更新期間を設定して下さい。ログファイルは「ホーム／ライ

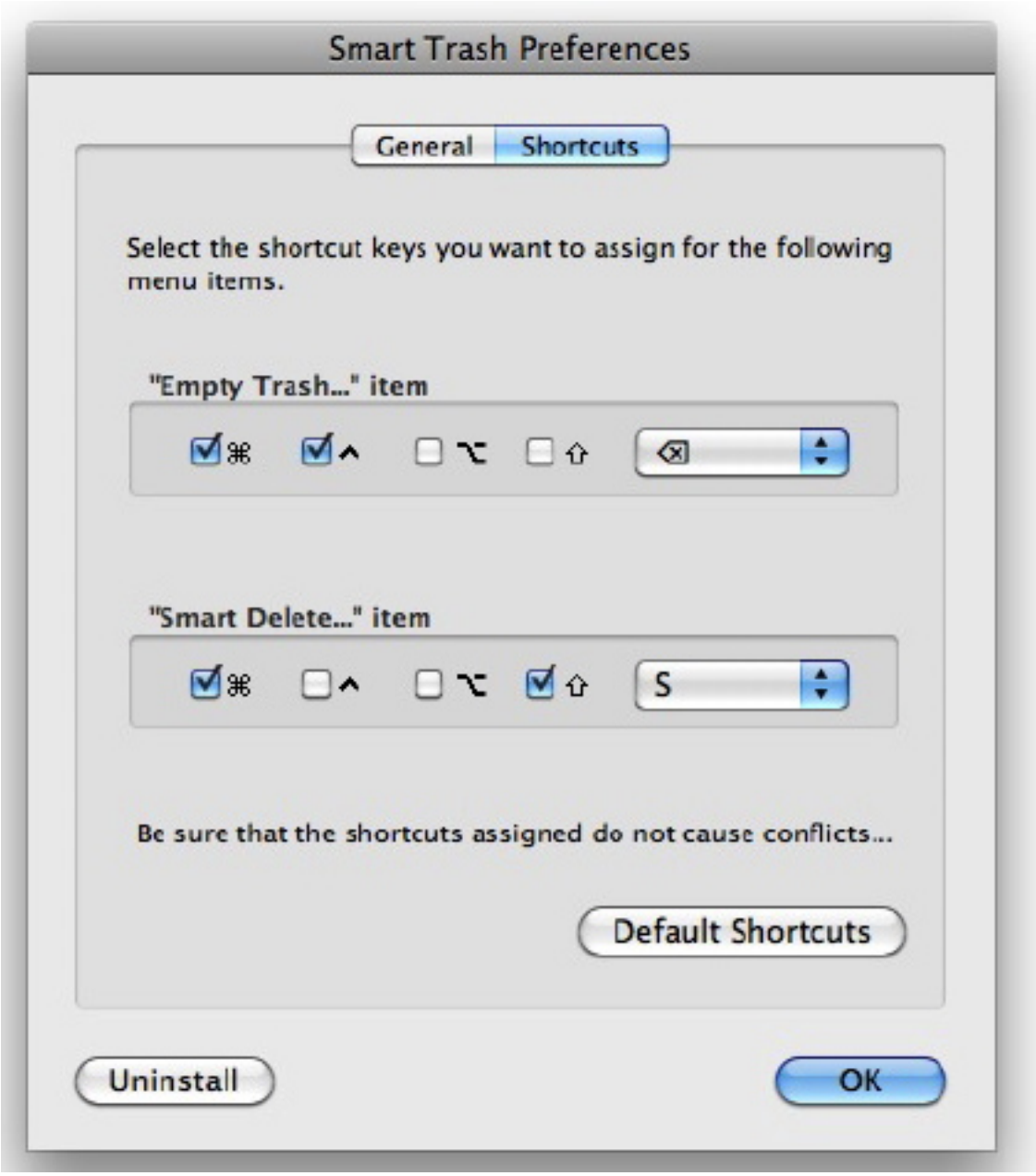
ブラリ／Logs／Smart Trash」フォルダに保存されます。「ユーティリティ」フォルダにある「コンソール」アプリケーションを使って開けます。

「Differentiate the trashed items by volumes」：ゴミ箱の中にボリューム別のフォルダを作成します。これをチェックすると「Finder」と他のアプリケーションの「取り消し」コマンドが使えなくなります。それを防ぐために下のスライダーを使って、実行の時間差（秒）を設定できます。時間差を設定すると、その時間が経ってから削除されたファイルがゴミ箱の中のボリュームフォルダに移動される。その間「取り消し」コマンドが使えます。

「Uninstall」：Smart Trashをコンピュータから削除する。

ショートカットキー

「Short Cuts」をクリックすると下記の画面が表示されます。



「Empty Trash」と「Smart Delete」のショートカットキーの割当ができます。
「Default　Shortcuts」をクリックすると初期設定に戻ります。